



青空に感謝してプレーします!

ゴールデンウィーク中、市内では「山崎貞一杯少年サッカー大会」や「TDK旗学童野球大会」など、スポーツの大会が行われました。スポーツができる喜びを、選手宣誓やプレーで表していました。

＝関連記事は8ページ＝

主な内容

- 被災地支援レポート……………P 2～5
- 出前講座……………P 6
- まちの話題……………P 8～9
- くらしの掲示板……………P12～

vol.136

2011

5.15

<http://www.city.nikaho.akita.jp>

がんばろう東北

白瀬南極探検隊 100周年記念特集

その拾貳



水の大陸が見え、3月9日には氷点下で海面が結氷し「氷餅」が一面に浮かぶようになり、午後5時には「かなんじき11個」と「石突7個」など上陸の準備を整えます。しかし午後8時、白瀬、武田、野村船長など4名で秘密会議を開き「流水があつて、上陸は難しい」と不穏な空気が漂います。

翌10日の午後4時、機関長から氷餅がスクリーン上の障害になり昨夜協議した地点までは行けないと言われ、南緯72度東経170度付近にあるカルマナ島北東側の大陸に上陸と修正。午後8時に再度会議。武田は「先程の上陸地点へ食糧、燃料等を持って向かうのは困難で、徒歩で海面を渡れそうにもない。それよりも北側の南緯71度あたりに上陸して冬営し、船で9月末から11月中旬までに上陸するのであれば、南極に近づくのには都合で、シヤクルトン（※）の後を探検するよりはよいだろう」と提案します。

11日の幹部会議で白瀬は「船を引き返して国民に謝罪するか、または周辺に1人で上陸して極点を目指すか、どちらを選ぶか死活問題である」と言います。武田はそれに対し「隊長と生死を共にする。隊長1人では極点にやれない」また、船長の野村には「是非とも南極州に上陸させてほしい。このことは責任を持ってやってもらいたい」と言っています。他の船員や隊員には秘密に、2力年の冬営のために要する雑品を準備することも決まります。

13日、吹雪のために陸地が判断つかず、野村は「たとえ殺されようと、多くの人命を預かっている。陸地を発見できなければ、引き返すほかはない」と武田に話しています。

14日、波も風も静かで上陸できると隊員は喜びましたが、正午頃から吹雪になり波も荒れてきます。夕食前、白瀬は甲板から降りてきて「これでは到

海上全面に発生した蓮葉形の水 (明治44年3月10日撮影)



未知に挑む  
く南十字星のもとにく

南極への進退を決めた

秘密会議

第一次航海の白瀬隊が氷海に行く手を阻まれ、シドニーへ引き返す決断をしたのは、明治44年（一九一）3月14日。どのように決断に至ったのか、南極記や白瀬の著書などには詳細に記されています。せんでしたが、昨年7月、白瀬隊の学術部長・武田輝太郎の資料が寄託され、その中の「南極探検」という日記に、無念の反転をしたいきさつが記されています。

最後の会議には白瀬、野村、土屋2等運転士、三井所衛生部長、そして、「会議に参加する勇氣さえ消失した」武田が参加します。武田は凶面を持ち出し南極圏内の島に寄港できないかと意見しますが、無理だと野村に言われ、ついにシドニーへの帰港を決議します。凍りつく海、氷が船にまとわりついて進行を妨げ、状況が刻一刻と変化する中で、上陸ポイントを探しましたが、南極への上陸は断念することになりました。

国民への謝罪や電報での南極探検後援会への報告、今後の資金繰りなど、白瀬は難しい課題を背負いながらシドニーへ向かうことになったのです。

白瀬日本南極探検隊  
100周年記念事業推進事務局  
☎ 38-4670  
白瀬南極探検隊記念館  
☎ 38-3765

「会議の様子」(南極探検私録 多田恵一著)



2011 熱戦再来 北東北総体

北の空 別無敵の可能性

にかほ市は平成23年度インターハイサッカー競技の開催地です。

企画・編集/にかほ市広報委員会 発行/にかほ市役所  
〒018-0192 秋田県にかほ市象潟町字浜ノ田1番地  
☎ 0184-43-3200 (代表) ☎ 0184-43-7510 (直通)  
ホームページアドレス <http://www.city.nikaho.akita.jp> 電子メールアドレス [info@city.nikaho.lg.jp](mailto:info@city.nikaho.lg.jp)